

土木森林環境委員会 県内調査活動概要

1 調査日 令和8年5月29日（金）

2 出席委員（9名）

委員長 飯島 力男

副委員長 中村 正仁

委員 河西 敏郎 寺田 義彦 流石 恭史 伊藤 毅

笠井 辰生 久保田松幸 志村 直毅

※河西委員は午前のみ出席

3 欠席委員 なし

4 地元議員

午 後 大久保俊雄

5 調査先及び調査内容

（1）意見交換会

① 出席者 山梨県森林組合連合会の組合長の皆様

② 内 容 「山梨県の林業における担い手確保と人材定着策について」

○主な意見

委員） 森林組合によっては森林整備をメインに行っていたり、出した木材を販売するところまでやっているという違いもあると思うが、しばらく前にウッドショックがあり、木材の価格が非常に上昇したということもある。逆に今は諸物価が高騰していて、家を建てようにもなかなかすぐに建てられない。いろいろな部材も入ってこないけれども価格が上がっているという状況がある。

このような状況は森林組合の皆様にとって収入増につながっているのか、現状どうなのかお聞きしたい。

出席者） ウッドショックはもう5年程前になるかと思うが、その当時の当連合会の原木市場における檜の平均単価がそれまで、1万7,000円から1万8,000円だったものが、平均単価3万円以上になった。こんな田舎の小さい原木市場で、世界情勢を受けながら単価が上がるのだなということがあったが、それも一時的だった。半年程で価格が下がり、今では檜は1万7,000円から1万8,000千円ぐらいが平均単価になっていると思う。

諸物価の高騰ということで、先日、当連合会の総会があったが、今まで利益が確保できていた

部門の経費が上昇したことにより、マイナス決算となった。価格を上げると需要減退になってしまっているので、その利益の幅が非常に少なくなったということで、諸物価の高騰は非常に大きな影響を受けている。特に、燃料費の高騰が非常に苦しいところである。

身延町の合板メーカーに話を聞くと、住宅着工戸数がかなり減っているとのこと。この前新聞に出ていたが、以前は住宅着工戸数が150万戸だったのが、昨年は74万戸ぐらいになっているということで、合板の生産調整をしている。以前は県森林組合連合会で400立方メートルぐらいの割り当てに対して、もっと欲しいという需要があったが、最近は生産調整しているので400立方メートルを確保すればいいという状況。

また、納める樹種もカラマツを中心に確保してくれと言われている。

住宅着工戸数が減っている関係で原木の需要が減っていくのは、11森林組合が危惧しているところである。

委員) 森林環境譲与税について、調べさせてもらったら1人年額1,000円賦課徴収され、600億円程度の税収がある。譲与基準は、私有林、人工林の面積、林業就業者数、人口割に基づいている。一番問題なのは人口割で、これが25%と聞いており、ここが問題かなと思う。

ある程度森林環境譲与税の配分があれば、職員にも給料が回るし、うまく運営できるかなと解釈したが、その解釈でよろしいか。

出席者) 森林環境譲与税だが、全国では600億円程度の税収があり山梨県では大体6億円ぐらいの配分がある。そのうちの1割が県に配分され、残り9割の約5億4,000万円程度が27市町村に配分される。昭和町には森林面積はないが、昭和町にも配分される。市町村のうち、多いところは5,000万円程度、毎年配分されている。

当連合会の理事会で各理事が集まるときに、それを獲得するような活動や陳情、森林組合の森林整備の方へ回してくださいということをぜひお願いしてほしいということを伝えている。

以前は森林譲与税の使い方が分からなくて、基金に積むだけであったが、今は県の働きかけなどがあり、市町村で森林整備はもちろんのこと、作業道の新設や林道の維持修繕等に使用していると思う。

委員) やはり事業を起こすということか。

出席者) 市町村に事業をつくっていただく。

県道や市町村道の周りに木が生い茂っていて台風などで通行止めにならないように、10メートル幅ぐらい木を切っておいて、ライフラインを確保するインフラ事業をしているところもある。加えて、森林整備の上乗せなどを行っているので、ただお金を要求するだけではなく、こういう事業をしてほしいという提案をしながら、お金が森林組合に流れるようにという活動は組合の各理事に働きかけをしている。

委員) 各森林組合が事業を起こして、森林組合にお金が出るようにするしかないということではないのか。

出席者) いきなり森林組合に補助してくださいということではなくて、こういう事業をするから、森林環境譲与税を使って森林組合へ仕事をくださいという働きかけをしていくということだと思う。

出席者) 市町村と一体化した森林組合になったほうがうまくいくというのはそのためだ。市町村長も先ほど説明があったインフラ事業について理解を示してくれるから、森林組合も一緒になって仕事ができる。

委員) 組合長の皆様から何か御要望等があったら、御発言願いたい。

出席者) 平成5年頃の林業構造改善資金と同じような予算が取ればよいと思う。あの補助金が復活するよう、こちらでも県に対して働きかけをしているが、県議会議員からも働きかけをお願いしたい。

出席者) 先ほど住宅着工戸数の話があったのだが、山梨県においては、県産材を使った工事については補助金が出ている。しかし、年々着工戸数が減ってきているということで、県産材の利用拡大を図って着工戸数を増やすためには、もう少し補助率をアップするような形で進めていっていただければありがたい。



※山梨県森林組合連合会にて意見交換会を実施した。

(2) 【国道140号・新山梨環状道路東部区間工事】

国道橋りょう改築費

○調査内容（主な質疑）

（東八代合同庁舎における質疑）

問） 東部区間の工事を進めていく中で、地域の方々も私たちも新山梨環状道路の1日も早い完成を願っているが、そういう中で、橋梁部に関しても暫定形で2車線対面通行という形で進められていくのかなと思う。

あわせて盛土も暫定形でこういう形になっているわけだが、南のほうを見ると、砂原、井戸、一部東油川、中道にかかる部分、それから小瀬のほうに盛土部分があるのだが、この中で、暫定の盛土の形で今後進んでいくところがどれぐらいあって、4車線が必要になるようなインターチェンジなどの場所によっては、最初から盛土が完成形で施工されていくのかなと思うのだが、その辺のところを今の時点で説明が可能ならお願いしたい。

答） 全体の盛土区間の延長は900メートルであるが、暫定形の区間については今現在お示しすることができない。

（後日、新山梨環状道路東部区間Ⅱ期における盛土区間の延長は、約1キロメートルと発言訂正があった。）

問） ここの区間とは直接関係ないが、アクセスする中部横断自動車道も現在2車線の対面通行で供用開始されている。将来的に交通アクセスだけではなくて、事故があった場合とか、大規模災害の場合の避難ということも含めて考えるとどれぐらいの車両が通行するかとか、どれぐらい整備効果があるかということも含めて、4車線化を計画どおり整備していくというのは、乗り越えなければならないハードルもあるのかなと思っている。盛土に関してはその工事の効果だけではなくて、工事をするのに高架のほうが費用はかかるかもしれないが、専門家ではないので勝手なことを言うが、できる限り最初から完成形で施工できれば、それがいいのかなと思いついたところである。

いずれにしても、新山梨環状道路の東部区間が、リニア中央新幹線開業という一つの節目に向けて整備されていくことを期待している。今後、ぜひとも御尽力をよろしくお願いしたい。

問） 私ども、地元の方からいろいろな御意見をいただいているが、県の執行部のほうに新山梨環状道路の関係で地元の笛吹市の方々から何か意見や要望が出ていれば主なものを伺いたい。

答） 供用開始時期についての問合せは多々聞こえてくる場所ではあるが、今のところその他の具体的な要望は把握していない。

問) いわゆるハーフインターになる場所やフルインターになる場所など、おおよそのことは私たちが地元への説明で話をしてしまうのだが、例えば、笛吹川の螢見橋からちょうど小石和のランプ近辺の道路状況など、県土整備部と新環状道路建設事務所、それぞれ所管が違うような状況もあるので、地元の方に説明等も含めてしていただきたいという声をよく聞くところである。

笛吹市選挙区には3名議員がいるので、いろいろと情報を教えていただければと思う。

問) 北部区間は国直轄施工、東部区間は県が施工しており、北部区間の2キロメートルについては順調に進んでいると報告をいただいている。仮に北部区間だけつながっても何も役に立たないので、供用開始のときは、北部区間と東部区間が一体的に供用開始になるのかなと思っているが、国の工事との進捗合わせも含めて、国とどのように連携を図っているのか伺いたい。

答) まず、東部区間と北部区間では事業主体が異なるので、それぞれの主体が、まず自分自身の予算、施工範囲内で執行していく。

東部区間については、山梨県が主体となって全面的に施工していく。北部区間については、用地交渉業務を県が受託して全面的に用地買収を行っていくという形で協力をしている。

その取組の中で、北部区間と東部区間の接点となる広瀬インター前の工程調整と併せて用地買収業務に関して、毎月調整会議を開催し、事務レベルの連携を行っているという状況である。



※説明、質疑の後、国道140号・新山梨環状道路東部区間工事現場の視察を行った。